

### 3 聴覚・言語に障害のある人

#### (1) 避難所で困ること

- 音声による情報の把握が難しいため、コミュニケーションがとりにくく、配給などの重要情報が伝わらない場合がある。
- 話しかけても返事ができない場合、誤解される可能性があり、コミュニティから孤立してしまう可能性がある

#### (2) 必要なもの・体制

- ・【メモ帳とペン】・【掲示板】・【携帯電話】・【PC】
- ・【ライト】・【電光表示システム】・【液晶モニター】
- ・【コミュニケーションボード】

※ コミュニケーションボードとは・・・

「食べる」「飲む」「どこが痛い」「手当」「トイレ」「移動する」などの絵記号や文字などが表記されたボード。言葉で自分の気持ちを表したり、相手の言葉の理解が難しい人たちが、指し示すことでやりとりを行う道具のこと。（参考 一部抜粋）



※公益財団法人明治安田こころの健康財団「コミュニケーション支援ボード」参照

### (3) 災害直後の対応方法・考え方

#### ○ 避難環境の整備（ハード）

- ・ 筆談を基本としている利用者には、夜間でも筆談ができるよう、懐中電灯を配る。
- ・ 多くの人が見やすい場所に重要情報を掲示しわかりやすく伝える。

#### ○ 対応方法（ソフト）

- ・ 配給などの重要な情報がある場合は、本人に伝わっているかどうか確認して、伝わっていない場合はメモなどで対応する。
- ・ 掲示板や事務局本部など視覚での情報伝達が伝わりやすい場所に居住スペースを設けることが望ましい。
- ・ 災害直後は筆談などすぐに伝わる方法が基本であるが、人によっては口の動きで判断できる場合があるため、コミュニケーション手段を本人に確認する。
- ・ メモ帳での筆談や携帯電話での打ち込みなど、電子ツールを臨機応変に活用しわかりやすく情報を伝える。

### (4) 必要な専門員（避難生活が長期化する場合）

- ・ 手話通訳者
- ・ 要約筆記

#### ☆ 少し気遣って・・・

- ・ 筆談する場合はわかりやすい言葉で、縦書きで書くと読みやすい。
- ・ 避難所で孤立しないよう、積極的にコミュニケーションをとる。